

世界はどう動く

識者に聞く

20

中国の脅威をどう分析するのか。

中国の脅威というのは、

ソ連型ではない。つまり、

イデオロギーを背景にし

て、領土や勢力圏を拡張し

ていくといった露骨な姿勢

はないけれど、一皮二皮む

いていくと、中には中華思

想というコアが存在する。

そういう意味からすると、

目覚ましい中国台頭の背景

には、中国を中心とした秩

序をつくりたいという願望

があると考えるべきだろ

う。習近平氏のいう「中国

張を図ることはしない。特に戦
略レベルでは、
鄧小平の戒めで
ある韜光養晦に
従い、超大国が
撤退するたびに
生じる「力の空
白」を埋める形
で慎重に進められる一方、
戦術レベルでは好機を逃さ
ず、果敢に島々への軍事侵
攻や実効支配を強めてき
た。逆にいうと、そういうも
のが顕在化するまではじっ

民主党副幹事長 長島昭久氏(上)

中華新秩序

「力の空白」逃さず侵出

と忍耐する。そういった緩急は指導部のお手の物だ。

1973年にベトナム戦

争が実質的に終結し米軍が

撤収すると、翌年すかさず、

南ベトナムへ侵攻すると同

時に南シナ海に進出、西沙

諸島を占領してしまった。

フィリピンでは91年から

92年にかけて、スービック海

軍基地やクラーク空軍基地

から米軍が全面撤収するや

いなや、同年、中国は「領

海法」を公布し、47年に蔣

介石率いる中華民国が宣言

した「9断線」に基づき、

尖閣諸島や台湾はじめ、南

シナ海の大半を併呑するよ

うな領有宣言を行った。

「9断線」とは当時、大

陸を支配していた中華民国

わが国はどう対処すべき

か。

2008年以降、中国は

尖閣に狙いを定めて、東シ

ナ海に出てきている。した

がって、こちら側がきちっ

と警戒感を持って毅然と対

応することが肝要となる。

つまり日本自身の国防の意

識を

中国の台頭に対し、

彼らはソ連のように無謀

な冒険はしてこない。だか

ら冒険を起こしたくなるよ

うな誘因をわれわれの側か

ら作り出さないことだ。

中国はベト

ナムと比に対する

外交姿勢が違つ

南シナ海では、

フィリピンに狙い

思と抑止力を構成する日米

同盟が重要になるのだ。

とりわけ日米同盟は、ア

ジア太平洋地域の安定のた

めの公共財だから、それが

有効に機能しているところ

を見せる必要がある。まさ

にそれが抑止力だ。

シアで日中の軋轢を避ける

ためには、日本も力がある

程度を示して、これ以上やる

と手痛い失点を喫してしま

うので、しばらく時間を稼

がないといけないと中国側

に思わせる抑止の備えが必

要だ。そうしてこそ、初め

て安定した関係が構築でき

る。そこから先は、経済的

なウィン・ウィンの関係を

模索することもできる。

手ごわいと熟知している。

だから、大概のところまで止

めて話し合いに入る。

中国をして国際社会と良

好な関係を保たせるために

は、米国がもっと力を示す

必要がある。局地的に東ア

ジアで日中の軋轢を避ける

ためには、日本も力がある

程度を示して、これ以上やる

と手痛い失点を喫してしま

うので、しばらく時間を稼

がないといけないと中国側

に思わせる抑止の備えが必

要だ。そうしてこそ、初め

て安定した関係が構築でき

る。そこから先は、経済的

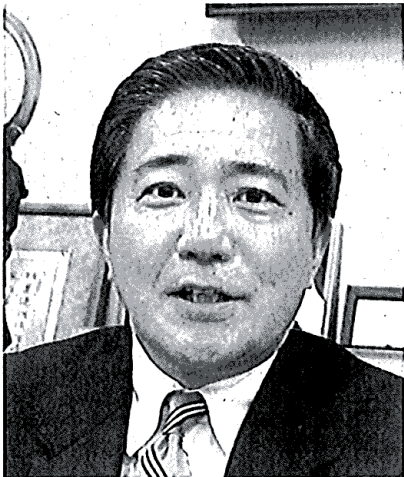
なウィン・ウィンの関係を

模索することもできる。

それこそが戦略的互恵関

係であって、ただ仲良くす

ることが戦略的互恵関係で
は断じてない。
(聞き手 池永達夫)



1962大ウイの米活
塾米研氏『日』数
義から客『図』多
慶年大書計な
ひ慶大著設
さ慶大著設
ひ慶大著設
き慶大著設
あれ。93年著設
ま生卒業。い儀
ま生卒業。い儀
ながし、横濱、大
年、法学、アン
がし、横濱、大
ながし、横濱、大

世界はどう動く

識者に聞く

民主党副幹事長 長島昭久氏(下)

長島昭久氏(下)

り、平時のコストもアメリカ側と日本が応分の負担をし合う。「有事のリスクを米が負い、平時のコストを日本が払う」といった現実からステップアップし「有

るぐらいの日本側の覚悟が必要だ。その前提として、集団的自衛権の行使を認めたい。そうした関係を構築して初めて安定した日米同盟関係を築ける。

そのためには、日本に軍事的な揺さぶりをかけてくる相手より強靱で安定していなくては、いざという時に役に立たず抑止効果は薄れてしまう。だから同盟関

米同盟の様々な活動を前提に外交政策や安保政策を構築しているからだ。ここが不安定になれば地域の不安定を招くのは必至だ。

——そのアジア太平洋地域において中国が米国外しに動いている。韓国の朴槿恵大統領はまんまとその農

安定した日米同盟関係を構築するには？
米国が危機に瀕した時、日本は米国を助ける条約上の義務を負っていない。しかし、本当の友人というのは、危機の時に分かる。調子のいい時だけ付き合っ

日本が平時のコストを減らしたのだった。ある程度、有事のリスクを取っていく。そういう努力をしない限り、バランスしない。

日米同盟強化

有事リスクも適正な分担を

私もその問題意識を共有する。

蒙古襲来に見られるように、わが国は歴史的に朝鮮半島から脅威を受けてきた。日清戦争も日露戦争も朝鮮半島が舞台だ。

事（コ）のリスクも平時のコストも適正に配分する。それどころ、持続可能で安定した同盟関係が保障される。

なるナショナリズムへの迎合のためではなく、眼前の厳しい国際情勢を直視したリアリズムの帰結だ。

意味で、私は常々、日米同盟の基本構造が抱えている脆弱性に懸念を持っている。

その日米関係が安定して、初めてアジア太平洋地域が安定する。なぜならばアジア太平洋の国々は、日

障上の懸念に対処していくためには、日韓関係が重要となる。
安倍首相の地球儀外交を評価したい。私は「遠交近攻」外交（中国古典の戦国策）に出でくる「遠交近攻」策を応用し、目的を「攻撃ではなく勢力均「衡」に置いた長島氏の造語」と言っているが、先ず遠い国と関係を構築し最後に残った課題を解決していくという手法は間違っていない。

そういうことからすると、米側から見ても不公平な条文になっている。

私の考える理想の日米同盟は、有事の時

も一緒に戦う。その代わり、

一朝一夕にはできないけれど、将来的には、安保条約5条、6条の規定を変え

させるためには、確かなパワーバランス（力の均衡）が必要となる。

アジア太平洋の安全保

評価すべきことだと思う。（聞き手 池永達夫）

も一緒に戦う。その代わり、

約5条、6条の規定を変え

が必要となる。

アジア太平洋の国々は、日

中心とするアジアの安全保

評価すべきことだと思う。（聞き手 池永達夫）